

1. 評価結果概要表

平成 20 年 5 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	0171501083		
法人名	有限会社 優心		
事業所名	グループホーム ゆうしん		
所在地	北海道北斗市開発225番地の8 (電話) 0138-77-2110		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年5月16日

【情報提供票より】 (平成20年2月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15人, 非常勤 4人,	常勤換算17.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円			
その他の経費(月額)	26,000 円			
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (2 月 1 2 日現在)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	7 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.25 歳	最低 68 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	函館五稜郭病院、しいぎ循環器内科、海老沢医院、利休歯科、藤崎整形クリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、北斗市近郊(旧大野町地域)、大野新道沿いの母体医療法人に隣接されて建てられている。事業所「ゆうしん」は法人「優心」から名を頂き、優しい心で、利用者と共に過ごしたい、運営者の思いが込められている。職員は、「家族的・笑顔」の理念と合わせ、利用者一人ひとりの思いに沿えるよう支援している。母体医療法人はリハビリを業務としていることもあり、事業所は介護にリハビリを取り入れているのが特徴である。事業所設立から2年経ち、今後は職員の研修も計画的に確保し、ケアの質の向上に向けて期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の職員への啓蒙については、職員のネームカードの裏に記載して、常に目に留まるように工夫されている。又、各会議においても理念について話し合い、改善されている。運営体制も新体制に変わり、今後に期待したい。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 管理者がこの4月より交代する。新体制に伴って自己評価に対する取組みも継続されることを期待する。地域との交流も既に案件も出来ており、今後の取組みに期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) この1年ほど運営推進会議を停止しており、2月に開催する予定である。運営推進会議の重要性は認識しており、近隣地域との交流を深める為にも継続することが望まれる。議事録は整備されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関入り口に苦情、相談の記入用紙とポストを設置したり、家族の来訪時に気軽に話しあえる雰囲気作りに努めており、提出された意見や要望はミーティングや全体会議の中で話し合い反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 当事業所は、住宅地域ではないので、日常的な交流は望めない。今後は、運営推進会議を活用して、町内会との交流や、保育所の子ども達との交流に働きかけており、その実現に向けての取組みに期待したい。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族のような暖かな雰囲気…」 「笑顔あふれる人生を共に…」 という事業独自の理念を掲げて、実践に向け日々取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎朝のミーティングや月一回のユニット会議、職員会議を通して、理念の実践に日々取り組んでいる。又、常に理念を意識するようにと、ネームカードの裏に理念を掲載して取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は住宅地より遠い為、地域住民との交流が少ない。	○	新年度より、地域との交流を積極的に持たたいとの意向をもっている。運営推進会議を活用して、町内会との交流、保育所の園児達との交流に働きかけており、その実現に向けての取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しているが、ホーム長、管理者などの交代が続き、継続的な取り組みまでに至っていない。	○	新年度より落ち着いてきており、運営推進会議も再開され、自己・外部評価の取り組みや評価後に見出された課題への改善に向けて、実施される事を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の重要性は認識しているが、この1年ほど停止している。議事録は整備されている。	○	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。次回は2月の開催を予定しているが、近隣地域との交流を深める為にも継続する事が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは常に連携を取り、情報交換を行い、考え方や実態を共有している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態を報告している。来訪のない家族には、電話連絡で様子を知らせているが、文書による報告は行っていない。	○	個々の家族などと、きめ細かいやりとりが、より良いサービスに繋がるので、あらゆる接点で情報提供を積極的に行うことが求められる。家族の安心に繋げる為にも、定期的に機関誌を発行するなど、文書での家族への便りも検討される事を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には積極的に話しかけ、意見や不満を表せるように心がけている。又、事務所前に「ご意見箱」を設置し、家族の意見を積極的に取り入れ、反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の移動が利用者へ影響する事を十分理解している。利用者や馴染みの職員によるケアを心がけ、関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で働きながらのトレーニングに寄るところが大きい。	○	運営者は、管理者・職員の質の確保・向上に向け、計画的に研修の機会を確保する工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道連絡協議会のブロック会議を通して交流している。今後、より一層交流を深め、サービスの質の向上に向けた取り組みが期待される。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族を交えて何度も検討を重ねた後でサービスの利用を開始されている。入居後も利用者が雰囲気に馴染めるように、一ヶ月毎にモニタリングし、工夫しながらサービスを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との会話を楽しみながら、利用者の思いを聞き逃さず、介護記録に残している。利用者と一緒に過ごしながら、共に学び支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を重視し、「家族の様に…、笑顔を持って…」の理念の基に、利用者一人ひとりの思いや意向を家族と十分話し合い、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の朝・夕の申し送りや毎月のユニット会議、職員会議の中で、利用者一人ひとりが安心して暮らす為の課題やケアについて検討し、又、家族との話し合いのもと介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は1ヶ月で見直しが行われている。その後3ヶ月ごとの見直しが行われている。家族の意向や状況の変化により、随時実情に即した見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体組織が医療法人であるので、介護にリハビリを取り入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で内科・循環器医師が往診している。利用者の受診も連携体制がとられ、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についての体制は検討中である。	○	重度化や終末期に向けた方針について、早い内から話し合いの機会を持ち、関係者全体の方針の統一を図る事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に穏やかに優しく対応していて、プライバシーに配慮している。運営者と管理者は個人情報の取り扱いにも十分注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの個性と体調に合わせ、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事の他に、パン食や外食が出来る日をもうけて、楽しい食事になるよう工夫している。食事の準備や後片付けなど、利用者の個々の能力を活かしながら、職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が出来る体制である。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2～3回、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物の取り込みやたたみ、新聞の取り込み、カラオケなど、一人ひとりに合わせた役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	卵や牛乳を業者から仕入っていたが、近所で販売していることがわかり、利用者と一緒に買い物に出るなど、外出の機会を多くしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はかけない。玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているが、不安を覚える利用者の安全を確保する為に施錠しているが、今後開放する方向で検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と連携を取り、避難訓練を行っている。利用者も参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は個々に極端な偏りがないように、一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広くゆったりとしており、明るくきれいである。寒冷地ということもあり、冬は床暖になっており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みのものがあり、居心地良く過ごせるようになっている。		

※  は、重点項目。